

分科会報告 C分科会

●テーマ：歴史的建造物と建物再生

- 司会：伊東寿良子（埼玉建築士会 理事、関東甲信越ブロック代表、(有)森田工務店 取締役）
- アシスタント：鶴沢香織（千葉県建築士会） ●出席者：47名



主旨

一般に、世界遺産や国宝級の歴史的建造物の再生には注目されるが、身近に存在する残したい歴史的建造物は取り壊されてしまうことが多い。価値のある古い建物で音楽会を続けることで、持ち主や市民、行政が歴史的建造物の発掘や維持保存の意識を持つきっかけとなった埼玉県大里支部女性委員会の活動報告を通して、報告者および参加者と意見交換を行い、昨年発足した全国ヘリテージマネージャーネットワーク協議会の役割についても考える。

事例発表

「構響楽 — 建物と音楽の響き」

コメンテーター：中野万紀子（埼玉建築士会）

埼玉建築士会大里支部女性委員会は、市民との交流会で、ある参加者の「ここで、音楽が聴きたい」という言葉をきっかけに、市内の古民家などで音楽家による演奏と地元の名産品を食してもらう手づくりの音楽会「構響楽」を行っている。

「構響楽」のこだわりは次のようなものである。



●「構響楽」。妻沼聖天山で音楽会から



●会議の様子。アイデア満載のプログラムを囲んで

- ① 構え：建物の話は持ち主に
- ② 響：演奏者は地元の有名な音楽家
- ③ 楽：おもてなし。地域の団体に協力してもらおう

これらの活動を通じて、捨てられないようなパンフレットの工夫や舞台の演出など、女性らしい気づかいが至るところにみられ、女性委員会の頑張りにより男性会員も協力的になった。

市民の方には建物へ興味を持ってもらい、残しておきたい素晴らしい建物が身近に存在していることを知ってもらえた。また、地元の新聞、テレビ、行政にも協力してもらえるようになった。

リピーターも多く、女性委員会だけではなく支部の行事として今年で9回目になる。苦勞を言ったら語りきれないが、参加者の反応が楽しいから辞められなくなった。

これがきっかけとなり、行政から大



里支部に建物再生調査の入札依頼がきて、建築士の仕事として受けることができた。

まとめ・今後の課題

支部の女性委員会がこれまでの活動を少ない予算で8年間も継続した事例は大変珍しい。知恵、心意気と頑張り、持ち主や市民、行政も動かしたことに参加者全員が感動していた。参加者の中には、国や行政からの依頼でヘリテージマネージャーとして活動した方や、古い建物でイベント等を行ったことのある方もおられたが、仲間や予算、行政がついてこないのが現状だという。

建築士会で全国ヘリテージマネージャーネットワーク協議会を設立し、専門家を増やして今後活躍の場があるのだろうか。地域の市民、行政が動かないからと諦めるのではなく、埼玉の大里支部女性委員会のような活動を伝え、外からアピールし、行動を起こしてしていくことが大切である。このように、全建女の分科会が発信となって、価値のある歴史的建造物を伝え残していける地域が増えることを願う。



●コメンテーターの発表の様子